[資料]

シングルマザーの子育てに関する質的研究;英語文献レビュー1995-2007

門間 晶子1,2) 浅野みどり3) 野村 直樹4)

要 旨

本稿の目的は海外文献におけるシングルマザーの子育てに関する質的研究をレビューし、今後の研究の課題を検討することである。CINAHLとPubMedのWeb版(1995-2007年)を用いて文献を検索した。その後、離別母子家族に焦点を当てた研究であるなど、筆者らの関心に基いた絞り込みを行った。該当した11の研究の関心や目的は子育てというテーマを中心として母子相互作用、家族のしきたり、母親非難、母親の被虐待経験やその後の家族再生プロセス等であり、研究方法は母親への複数回のインタビューによるものが多かった。看護職者にとって重要なこととして、i)当事者の女性が抱える慢性的な疲れや多重役割と葛藤を理解すること、ii)子育てスキルを提案できること、iii)孤立感解消につながる支援ができること、iv)開かれた家族関係を築くために支援できること、v)家族が経験を一貫した物語として構成するなかで意味づけていくのを助けること、vi)一緒に考えてプランを立てる姿勢をもつこと、などが示唆された。支援者や研究者が外側から当事者のニーズや能力を規定するのではなく、当事者の経験から学び、当事者が選んだ方法で課題に取り組むのを支援する姿勢が求められていると考える。今後必要となる研究として、パートナーからの暴力が子育てに与える影響についての研究、ひとり親とふたり親家族との相違だけではなく類似性に気づく研究が挙げられた。そのような取り組みによって、シングルマザーの子育で研究での知見が子育て全般の課題理解につながる可能性がある。

キーワード:ひとり親家族、シングルマザー、子育て、海外文献レビュー、質的研究

1. はじめに

1. シングルマザー家族およびその研究動向

離婚率の上昇や少子化に伴い、家族構成の多様化、家族機能の変化等が現代の子育て環境に生じている。 日本においては2003年現在のひとり親世帯数は122万5,400であり、5年前の調査に比べて28.3%増加している¹⁾. 米国では1990-2000年の約10年間にひとり親家族が970万から1,200万に増加し、特にシングルマザー家族での経済事情が深刻であり、女性を

を理解するための研究の必要性が指摘されてきたが、 シングルマザーという経験が実際どのようなものか については、日本に比べてシングルマザーの率が高 い欧米諸国においてもあまり知られていない³⁾. 日 本におけるひとり親家族に関する研究は社会学、社

female-headed familyであった³⁾.

筆頭とする家族(female-headed family)が最も貧 困な層に属している²⁾. また豪州では1986年から96

年の約10年間に養育の必要な子どもをもつひとり親家族は15%から19%へ増加し、そのうち87%が

このような動向を受けて、シングルマザーの家族

会福祉学,心理学,医学,女性学等の分野で行われてきたが,その数は少ない.国内におけるシングル

マザーの研究に関する文献レビューでは4)、わが国

¹⁾ 名古屋市立大学看護学部

²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科博士課程後期課程

³⁾ 名古屋大学医学部保健学科

⁴⁾ 名古屋市立大学大学院人間文化研究科

のひとり親家族研究は、「崩壊家庭」「欠損家庭」という言葉でその存在自体を問題として捉える視点から、多様な家族形態の一つとしてひとり親家族を価値判断抜きで捉えようとする視点への転換期にあった。研究方法として数量的分析、短時間のインタビュー、事例検討が中心であり、今後はシングルマザーの家族が抱える各問題への、それらの相互作用を含めた探求、分析者自身の規範や従来常識とされてきたことへの取り組み、会話の質的な分析、現状や問題点を当事者の視点で描き出す方法、等が提案されている4-6.

ひとり親家族の特質や抱えやすい問題として Friedmanは貧困,流動的に役割を果たしにくいという役割葛藤,再婚により再び役割を変更するという 役割移行,多かれ少なかれ直面する社会的スティグ マをあげている⁷.とりわけシングルマザーには, いっそうの経済問題,不利な社会的背景,未婚の母 親の場合はより厳しいスティグマに直面しやすい, という状況にある⁷.

2. 本稿の目的

ひとり親家族の子育ての経験に関する海外の文献 レビューとしては、Ford-Gilboeらが1983年から93年 までの11年間のひとり親家族に関する研究をフェミニストの視点でレビューしたもの⁸⁾が貴重である. 今回は、Ford-Gilboeらのレビュー以降の時期に当たる1995-2007年の海外文献におけるシングルマザー家族の研究について、特に筆者らが関心をもつ質的な研究の文献レビューに取り組んだ.

本稿の目的は英語文献におけるシングルマザーの 子育ての経験に関する質的研究をレビューすること, およびシングルマザーの子育てに関する今後の看護 研究と看護実践の課題や可能性について検討するこ とである.

Ⅱ. 英語文献検索の方法

1. 文献検索の対象と方法

CINAHLとPubMedのWeb版を用いて1995-2007年のシ

ングルマザーの子育てに関する英文の質的研究を検索した.キーワードとしてはsingle parent, one parent, single mother, lone mother, divorced mother を用い,子育でに関するchild rearingやchild care,質的な研究を探すためにqualitative study, experience等の用語を用いて絞り込んだ.得られた情報に基づいてさらに文献を探すなど,手動検索で得られた文献も加えた.筆者らの手元に収集された文献のうち,テーマや対象者などからシングルマザーの子育でには関連が薄いと判断した文献を除くと47件となった.

2. 文献の絞り込み:本稿で扱う文献の基準・特徴 47件の文献に対して、筆者らの関心に焦点を当て た文献を探すために、Ford-Gilboeらのレビューを参 考に⁸⁾次の4つの基準を設けて論文を絞り込んだ。

①質的な研究方法を用いて主に子育てに関するシ ングルマザー自身の経験を扱った研究であることを 基準の一つとした. そこで、観察やインタビューに よって得られたデータではあっても、それらを測定 尺度に当てはめて量的に分析したもの9-15)は除外した. 例えば地域において乳幼児をもち、貧困等のリスク を抱えた家族(約半数がひとり親家族)に対して行 われる母子相互作用促進を目的とした早期介入プロ グラムの効果判定を訓練された調査者の観察によっ て行い, プログラム参加前後の母子相互作用の比較 を統計学的に行った¹⁵⁾Mildredらの研究は除外した. また、女性の子ども時代の被虐待体験を扱い、現在 の子育て体験には特に触れていない研究16,17)や親の 離婚あるいは虐待を体験した子どもを対象とした研 究18,19)についても除外した. 保健師などの支援者を 対象とし、その視点から子育ての経験や家族看護の あり方を描いた研究は非常に興味深いものであった が20-22), 今回の検討からは除いた.

②離別シングルマザー家族の母親を主な対象者とする研究であることを基準の一つとした. ただし、対象となる文献が非常に限られる可能性があったため、対象者の中に離別シングルマザー家族が含まれている研究についても文献選択の基準に含めた. したがって、未婚や若年の母親を対象とした研究は比

較的多く見られたが、本レビューの対象とはしなかった. 未婚や若年の母親に焦点を当てて研究しているのはSpear²³⁻²⁵⁾, SmithBattle²⁶⁾, Seibold²⁷⁾, Hanna²⁸⁾, Averitt²⁹⁾, Stiles³⁰⁾, Lesserら³¹⁾, 等である.

③地域で暮らす女性への研究,つまり非臨床の対象者への研究であることを基準の一つとした.したがって薬物依存や嗜癖,精神疾患等,明らかな精神的健康問題を抱えている母親の経験³²-³6′,HIV感染等の健康問題を抱える母親の経験³³′は文献検討から除外した.また,母親自身は臨床的な問題をもたず地域で暮らす女性ではあっても,病気や障害をもつ子どもを育てる母親の経験に焦点を当てている研究³8-41′)は文献検討から除外した.

④研究者の中に少なくとも1名看護職者が含まれることを基準の一つとし、研究者の中に看護職者が含まれない研究は除外した。除外した研究を具体的に述べると、教育学者による離婚後の家族の絆と子どもの情緒的、社会的、学力的な能力との関係についての研究⁴²、心理学者による、都市部の危険地域に暮らすアフリカ系アメリカ人シングルマザーの子育でにおけるリジリアンスのプロセスに関する研究⁴³、公衆衛生専門家による、子どもの行動が家族相互作用に及ぼす影響に関する研究⁴⁴であった。

3. 文献レビューの分析視点

このように、設定した基準に基づいて入手した47 文献から36文献が除かれ、文献レビューの対象とする研究論文は11件となった。これら11文献の検討についてはFord-Gilboeらによる文献レビューの方法®に準じて、シングルマザー家族の捉え方(概念)、研究目的、研究方法(研究デザイン、基盤となる理論や立場、研究方法、研究参加者、データ収集方法)、結果およびその解釈、の視点から検討する。なお、レビューした文献には、シングルマザーの子育て経験を直接的に取り扱った研究と子育てに関する研究の中でシングルマザーを対象に含んだ研究とが混在するため、後述の結果および考察の中で、できる限り両者を分けて論じることとする。

Ⅲ. 文献レビューの結果

検討した11文献の発表年は,1997年1件,2003年2件,2004年5件,2005年2件,2007年1件であり,発表年では2004年に多かった.論文の発表年,著者,研究目的,研究方法の概要については年代順に表に示す.

表 シングルマザーの子育てに関する海外の質的研究の概要(発表年順)

番号	発表年	筆頭著者	研究目的	研究方法			
号				研究対象者とその特徴	研究デザイン/データ収集・分析方法		
48	1997	Barbara Sachs, et.al.	・就学前の子どもをもつ低収入のシングルマザーの親としての態度と行動を探索すること・「未就学の子どもをもつシングルマザーであるとはどういうことか」が研究族の健康に、シングルマザー家族の健康に関する縦断的研究の一部として実施	・前回の研究に参加したシング ルマザーのうち 9 人の母親	・非構造的および半構造的インタビューを 8週間間隔で3,4回,計14ヶ月に渡っ て実施.最初は研究疑問に沿った質問, 続いて母親が話す内容に沿う非構造的な 面接,さらに焦点を絞るための半構造的 インタビュー ・データ分析は継続比較法(Glaser,1978) による ・分析して浮かび上がったテーマの妥当性 を母親に確認した		
49	2003	Cndy Mendelson	・家族の健康を生み出す活動に 対する女性の役割を記述する こと、女性が家庭内で果たす 健康を守る活動に焦点を当て, その内容や意味を記述する ・特定の民族における子育ての 経験に焦点を当てる	・シングルマザーを含む,文化 的になじんだメキシコ系アメ リカ人女性13人 ・研究参加者を探す方法は顔な じみの人への直接依頼,研究 参加者からの紹介	・民族誌的なデザインと方法 ・データ収集はエスノグラフィック・インタビュー;文化的に凝り固まった意味をとりだして探るようなインタビュー,参与観察,フィールドノート ・深いインタビューと補足的なインタビューを組み合わせた6~8週間隔の複数回のインタビュー ・データ収集と分析は同時進行		
46	2003	Judith Wuest, et.al.	・虐待を受けた家族のヘルスプロモーションへの主な障害と見なされる意見の押しつけ(intrusion)の基本的・社会的問題を討論すること・暴力的な父/夫の元を去った後の母子家族のヘルスプロモーションプロセスを検討する	・カナダの2つの異なる地域に暮らす、36人のシングルマザーと彼女らの11人の子ども(12歳以上)・シングルマザーは暴力的なパートナーと別れて9ヵ月~20年経過した人々・地方紙の広告やコミュニティ内の建物への掲示による募集	・異なる 2 地域で同時に実施 ・Glaser & Straussによるグラウンデッド・セオリー・アプローチに主観的経験を探すためのフェミニストの観点を加えたフェミニストグラウンデッド・セオリー研究・データ収集と分析は同時進行 ・初回インタビューから 4 ヵ月~2.5年後に再インタビュー		

番号	発表年	筆頭著者	研究目的	研	究 方 法
				研究対象者とその特徴	研究デザイン/データ収集・分析方法
47	2004	Judith Wuest, et.al.	・暴力的なパートナーと離別後 の家族のヘルスプロモーショ ンの社会的プロセスを説明す る本質的な理論を開発するこ と	・カナダの2つの州に住む,暴力的なパートナーのもとを離れて1~20年経過したシングルマザー40人とその子ども11人	・質的方法としてのフェミニストグラウンデッド・セオリー ・データ収集と分析は同時進行 ・理論的サンプリングによるデータ収集はインタビュー、観察、テキスト ・3年以上の間隔をあけて2回のインタビューを実施 ・家族の希望や子どもの年齢によってはグループでのインタビューも実施
50	2004	Debra Jackson, et.al.	・母親同士のグループの中で経験している母親の罪意識を探索する ・育児経験の長い母親から,子どもの成長を振り返りながら子育てにおいて経験した「母親非難」を学ぶ	・17歳以上の子どもをもつ育児経験の長い母親 ・電子メールを通して最初に集まった3人から雪だる生生の力にでいる。 集まった計20人の女性・母親の年齢は30代後半~50代半ば、15歳~31歳の子ども1~4人を育て、少なくとも1人は17歳以上・母親のうち4人がひとり親であり、比較的教育歴の高い女性達	・フェミニスト・アプローチにより、インタビューを用いて語り(narrative)を分析し、母であることの一部であり、複雑化された責任への負担としての母親の罪意識を明らかにした・2~4時間のインタビューを1回・「母親非難」を聞き取る際り、母親としてとりを動きり、母親としてレンジングであったことや肯定的な側面について話してください」
2	2004	Patricia Hale Moriarty,et.al.	ひとり親家族に見られる家族 のしきたりのタイプおよび家 族という文脈の中でのそのし きたりの意味を探索すること	・理論的サンプルである7人の ひとり親,うち1名はシング ルファーザー・収入や学歴などから,貧困層 には属さない人たちの研究	・未知の領域であることから、質的研究の 方法としてグラウンデッド・セオリー・ アプローチを用いた ・非構成的な対面式のインタビュー
45	2004	Sharon Yanicki	・低収入でひとり親である母親 のソーシャルサポートと家族 の長所を検証すること	 ・アルバータ(カナダ南西の州) に住む purposeful sampleで ある13家族 ・平均年間収入は15,423ドル, 平均子ども数は2.1人 	 質的探索型記述的なデザイン 反構成的なインタビューでは家族はフォーマルなサポート,インフォーマルなサポート,家族の長所の関係について気づいていることや意味を述べるよう依頼された・その他としてジェノグラム,ファミリーエコマップ,ネットサーベイ,ファミリーアセットマップを用いた
51	2004	Rebecca Keating-Lefler, et.al.	・低収入のシングルマザーのニーズと関心を記述し、子育で期にこれらの母親へ適用されるソーシャルサポートメカニズムを評価すること	 ・低収入でパートナーと暮らしていないシングルマザー5人 ・アフリカ系アメリカ人4人,白人1人 ・19歳1人、20歳2人、22歳2人 ・3人の子どもがいる1人以外は一人目の育児 	・経験豊富なスーパーヴァイザーの助言を受けながらのフォーカスグループインタビューを用いた ・ディスカッションのテーマは研究目的に沿った複数の質問:母になることの意味、子育体験、ニーズと関心、ストレスの原因、シングルマザーであることが人間関係に及ぼす影響、ソーシャルサポートの認知等
3	2004- 2005	Olayide Ogunsiji,et.al.	・看護の学士教育を受けている シングルマザーの生きられた 経験へのホリスティックな見 方を獲得する ・大学におけるシングルマザー 支援につながる方略の発展を 促すような知識を得る ・将来の研究の方向性を見出す	・大規模大学で看護学士取得の 教育を受けているシングルマ ザー	・経験をよりよく理解するために最も適切な質的研究方法としての現象学・少人数への比較的短い1回きりのインタビュー
52	2005	Eugenie Hildebrandt, et.al	・福祉プログラムを利用しているひとり親が健康やウエルビーイングに対してもつボジティヴあるいはネガティヴな認識を探る 連福祉プログラムを利用する脆弱な女性の健康やウェルビーイングに対する指すを一般的な集団と比較検討すること	・ウィルコンシン市に暮らし、 職業関連福祉プログラム (TANF)を利用する34人 のシングルマザー ・ネットワークあるいはスノー ボールサンプリングによって 募集 ・31人はアフリカ系アメリカ人、 1人は白人、2人はヒスパニック系 ・21歳~47歳、平均32歳ですべて子育て中	・コミュニティを基盤とした記述的な研究・フォーマットを用いた調査と個人インタビューという,量的手法と質的手法のトライアンギュレーション・ウェルビーイングとクオリティ・オブ・ライフの知覚を測定するツール(GWB)とストレスフルなライフイベントと効果的な介入についてのインタビュー
53	2007	Tatiana Coelho Lopes, et.al.	・母親が子どもに提供している ケアを記述すること ・主たる質問は「家庭での子ど ものケアはどのようなものか」 「子どもが家庭でケアを受け ている際、日常生活はどもへ うに変わったか」「子どもへ ケアを提供する際にあなたが 直面した困難と励ましは」	・ある病院の新生児在宅ケアプログラムを受けた子どもの母親11人・17歳~43歳であり、未成年(10代)は4人・8人は専業主婦、3人は仕事をもち、4人は夫が無職あるいは家庭を見捨てたため世帯主(シングルマザー)である	・半構成的インタビューを用いた質的研究 ・インタビューデータは丹念に読みこみ似 たようなテーマごとに分類し、ディスコー ス分析を行う

1. シングルマザー家族の捉え方

各論文がシングルマザーをどのように捉えているかについては、研究対象者の操作的定義と研究対象者をどのような存在であると捉えるのかという研究者の立場や考え方の2点が関係する.

「ひとり親家族」の操作的定義を特に定めた例と して、Moriartyら²⁾は対象者であるひとり親を「生 物学上の親とし、別離、離婚、非婚等の理由で最低 3年間同棲相手をもたず、ひとり以上の子どもをも ち,世帯主であること」とした.これは米国におけ る過去の国勢調査においてsingle-parent families とsingle-parent householdsを区別したことに基づ いており、前者はパートナー等と生計を共にしてい る可能性があるが、後者はそのひとり親が家計を賄 う唯一の大人である. すなわち家族形態のみでなく. 家計の状況をも視野に入れた定義を用いる場合があ る. Ogunsijiら³)は「家庭において配偶者やパート ナーをもたずに親子関係をもち, ひとり以上の子ど もと共に暮らし、子どもの日々のケアと福祉に責任 をもっている」女性を研究対象のシングルマザーと した. いずれの定義も研究者の関心により迫るため の限定であろう. 同様に、研究対象者であるlonemother familiesを分析の段階で3つのタイプ;母子 だけの暮らし、母親の親など他の家族との暮らし、 家計の分担者との暮らし, に分けて検討している研 究45)があり、家族の経験を検討する際に、その家族 の構成や家計の状況を考慮する必要があることを示 している.

一方、研究対象者をどのような存在と捉えるのかについては、米国ではかつてひとり親家族を"broken"、"deviant"、"abnormal"、"unstable"、"disorganized"と表現し、先入観や差別を助長してきた²⁾. Ford-Gilboeらのレビューでは、ひとり親家族の捉え方を「問題に焦点を合わせた見方」と「家族の能力を認めるようなバランスのとれた見方」とに分けて検討している⁸⁾. 本レビューの対象となった研究の中でも、フェミニスト・アプローチの立場をとる研究では、シングルマザーの強みに焦点を当

て、被害者ではなくサバイバーとして女性を捉えて いる46.47)

2. 各研究の目的

まず、シングルマザーの子育て経験を直接的に取り扱った研究について述べる。研究目的となる明らかにしたい家族の経験は、親としての態度と行動⁴⁸⁾、虐待を逃れた後の家族の再生プロセス⁴⁶⁾、家族のしきたりのタイプと意味²⁾、ソーシャルサポートと家族の強み⁴⁵⁾、母親のニーズと関心およびソーシャルサポートの評価⁵¹⁾、母親と学生両方をこなす体験³⁾、健康に対する母親の認識⁵²⁾、であった。いずれの研究も、ひとり親家族の経験が十分明らかにされていないことが取り組みの動機や背景となっていた。これらの研究についてやや詳しく述べる。

Hallらは1991年に、低収入のシングルマザーのう つ症状の予測因子を見出す量的研究を行い54), それ はGilboeらのレビュー®の対象ともなった. その研 究の続編として、1991年の研究対象者の一部である シングルマザー9人を対象に、被虐待経験が子育て 中の母親の自尊感情や養育態度に及ぼす影響が検討 された48). Wuest らは、暴力的な夫/父親から離れ た後のシングルマザー家族のヘルスプロモーション プロセスに関する研究を行い46),健康促進する上で 問題となるintrusion(家族を優先することからエ ネルギーをそらすような外からの統制や妨害)に注 目した. さらに家族がこのintrusionを克服して健 康を促進する理論の開発を目的とする研究へつながっ た⁴⁷⁾. Keating-Leflerらは,低収入でパートナーを もたないシングルマザーにフォーカスグループイン タビューを行い、子育ての経験やソーシャルサポー トへの認知、母親のニーズや関心について研究を行っ た⁵¹⁾. Moriartyらはひとり親家族のしきたり(family rituals)を理解して促すことが看護実践にとって 必要だと考え,「ひとり親家族はしきたりを用いて どのようにして家族の感覚をつくり上げるのかしと いう問いを探求した2. また,看護は女性が多数を 占める専門職であり、豪州では毎年多数のシングル マザーが看護教育を受けるが、大学で看護の学士を 取ったシングルマザーの経験についてはほとんど情報がなかった、そこで、Ogunsijiらは看護学部の学生である5人のシングルマザーの経験を探索した³⁾.

一方、シングルマザーの子育て経験を直接的に扱うというよりは、子育てに関する研究の中でシングルマザーを対象者として含んだ研究について述べる.このグループにおける、研究目的として明らかにしたい家族の経験は、家族の健康を守る役割⁴⁹、母親が感じる非難や罪意識⁵⁰、母親が子どもに提供しているケア⁵³、であった、また、理論の開発を目的とした研究⁴⁷もあった.

3. 各研究の方法

1)研究デザインと基盤となる理論

研究デザインとして多く用いられたのは探索的で記述的なデザインである.特定の状況にある人々の生活を理解するために現象学的アプローチ³⁾やエスノグラフィック・アプローチ⁴⁹⁾が用いられた.フェミニスト・アプローチは女性が女性の利益のために行う研究である^{46,47,50)}. Wuestらはグラウンデッド・セオリーとフェミニスト理論を併用することによって,理論的感受性がフェミニズムの影響を受け,研究者は性別,文化,階級,能力,年齢,性的指向がデータの中で露わになるプロセスに敏感になり,生成される理論の変化に影響するようになる⁴⁶⁾という.フェミニスト理論は研究対象者への尊敬,操作の放棄,内省,発見が個人や社会システムの変革に有用であることを信条とし,その信条によって研究プロセスが導かれる⁴⁶⁾.

いわば分析のツールとして多く用いられたのはグラウンデッド・セオリー・アプローチや継続比較法であった^{2,46,47,48)}. これらの方法は理論開発に有効であり、データ収集と分析が同時進行し、浮かび上がった理論が次のデータソースを選択する理論的サンプリングが特徴である⁴⁷⁾とされる.

研究方法として、ほぼすべての研究でインタビューが用いられ、その方法や内容にはユニークなものがあった. 少人数への比較的短い1回きりのインタビューもある^{3,52,53)}が、複数回のインタビューを行った研究

が多い. 例えばSachsらは最初のインタビューでは 「未就学の子どもをもつシングルマザーであるとは どういうことか.」という質問,次には母親が話す 内容に沿う非構造的なインタビューを行い、シング ルマザーの経験として浮かび上がったテーマの妥当 性を母親に確認した48). 特定の民族の子育て経験に 焦点を当てるために民族誌的デザインを用いた研 究49)では、「文化的に凝り固まった意味をとりだして 探るようなインタビュー を用いた. データ収集は 他に参与観察やフィールドノートによるとあるが、 詳細は記されていない. 子育てにまつわる母親への 非難や母親の罪意識を探るためにあえて年長の子ど もをもつ女性を対象とした研究では、非難や罪意識 に焦点を当てた質問ではなく、「母親としての自分 を振り返り、最もチェレンジングであったことや肯 定的な側面について話してください.」という質問 を用いた50). また暴力的なパートナーのもとを離れ たシングルマザーに対して,数年越しのインタビュー を実施した研究では、家族の希望や子どもの年齢に よってグループでのインタビューも実施した47).

2) 研究対象者およびその捉え方

Ford-Gilboeらは、レビューした研究11件中9件が 研究対象者を非臨床の集団から募っていたことにつ いて、ひとり親家族の問題をより現実的に描き出す 積極的な一歩として捉えている⁸. 今回レビューの 対象となった研究も、すべて地域で生活する人々が 対象である. 対象者の選び方は、シングルマザーを 直接対象とした研究^{2,3,45-48,51,52)}と,対象者の一部にシ ングルマザーが含まれたもの49,50,53)とがあった. 母親 とともに子どももインタビューの対象に含まれた研 究もあった46,47). また、貧困と関係する研究が多い 中で、貧困層には属さない人心や比較的高学歴の女 性達を対象とした研究500もあった. 乳幼児から就学 前までの比較的幼い子どもをもつ母親を対象とした 研究48)がある一方、子育て経験の長い母親の経験を 知るために、特定の年齢以上(この場合17歳)の子 どもをもつ母親を対象とした研究500があった。対象 者の民族,言語,結婚形態,教育歴,雇用状況,収 入, 貧困レベル等の特性について明記している研究47-50 もあった.

研究者が研究対象者をどのように捉えているのか、対象者と研究者の関係についても方法論上の重要な側面である. Ford-Gilboeらのレビューでは、「対象者」という表現の代わりに「参加者」「女性」「家族」という言葉を用いた研究が大半を占めた®. またそこでは研究の妥当性を高めるために「参加者」の意見を求めるという方法を用いた研究もあった. 本レビューの対象となった11論文では、「対象者(sample)」と表現している研究がほとんどであったが、「研究参加者(study participants)」と表現している研究もあった. 特にフェミニストアプローチを用いた研究もあった. 特にフェミニストアプローチを用いた研究が6.47.50)では、対象者への尊敬や操作の放棄が信条であり、研究者と研究対象者の相互作用を積極的に認めている.

4. 各研究の結果および実践や研究への示唆

レビューした文献からは、それぞれの関心と目的に沿ったユニークな結果が導き出された。前述したように、シングルマザーの子育てを直接的に扱った研究と、子育てに関する研究の中で対象者の一部にシングルマザーが含まれた研究とでは、結果や示唆を分けて検討する必要があるだろう。

1)シングルマザーの子育てを直接的に扱った研究シングルマザーの親としての態度や行動を探索した研究⁴⁸⁾では、子どもへの見方、親としてのフラストレーション、非現実的な理想家族イメージが共通して見出された。そこでは、シングルマザーは、認めたりほめたりする等、家族が共にいるための努力を支える誰かを求めていた。様々な脅しを用いて子どもをしつける母親は高いストレス状況にあり、子育てスキルの上達が必要であると考えられた⁴⁸⁾。また、看護職者はひとりでの子育てや子ども時代の虐待経験が養育に悪影響を及ぼす可能性があることに気づくべきであり、介入の際には家族と共にプラィを基盤とした介入、具体的には孤立を減らすサポートグループ、レスパイトケアなどが効果的である⁴⁸⁾。

パートナーからの虐待を受けたシングルマザーの 経験を扱った研究46,47)において、虐待を行うパート ナーから離れることによって虐待の被害が取り除 かれ、家族は癒され回復するというドミナントな見 方に対して、20年以上もハラスメントの侵入的 (intrusive) パターンが続く46)ことが見出された. 家族は虐待を受けなくなっても完全には自由になれ ず、それ故、別離だけでは虐待からの回復につなが らない. よりオープンで見通しの利く家族環境を促 し, 家族内外に新しい関係の基準を設定することに よって、情緒的健康を支持するような新しい人間関 係のパターンを創り出すことができる46). 続くWuest らの研究では⁴⁷⁾、intrusionを克服する方法としての regenerating family (家族が何とかやっていける単 位としてのひとり親家族を再生するプロセス)に注 目した. それは以前のふたり親家族とは異なる基準 によっており、以前の破壊的な家族環境を開かれた 安全な家族関係パターンへと置き換えることが家族 再生のゴールとなる. 家族が混沌とした重苦しい環 境から見通しの利く家族環境を創っていく方法を意 図的に生み出すことが、母と子の情緒的健康を強め るようなヘルスプロモーションプロセスにつながっ た. そのプロセスは「チームとして役割をもつ」こ とと「共にこれまでとは違った風に生きる」ことで あり、看護職者はパートナーの虐待から逃れた家族 が新しい人間関係のパターンを見つけ、予防的なス トーリーラインを創り上げたり修正したりするのを 助けることができる47).

ひとり親家族のしきたり(family rituals)についての研究は²⁾,6つのタイプのしきたり(つながりとしての,霊的な,愛の,レクリエーションの,お祝いの,子どもの成長にあわせて展開する)を見出した.その研究の中で親たちは,時間や経済的な制約があるにもかかわらず,しきたりを忠実に守ることの大切さを伝えた.ひとり親家族におけるしきたりは家族の絆や価値を強める方法のひとつであり,また親たちはストレスへの適切な順応として,家族が健全であり続けるために家族のしきたりを用い,

しきたりを使うことで家族を意義づけようとする力を得ていた.ひとり親家族においてしきたりは、頼りであり楽しみであり、信頼や依存をもたらし、コミュニケーションを促進する役割をもつという特別な意味をもっていた²⁾.

低収入のひとり親家族のソーシャルサポートと強みを検証する研究(5)では、前述したひとり親家族の3つのタイプ(母子だけでの暮らし、母親の親など他の家族との暮らし、家計の分担者との暮らし)を見出し、すべての家族がニーズに見合った十分なサポートを受けていると感じているわけではなかったが、家庭訪問による看護職者の肯定的なサポートがひとり親の子育てに変化を与えるものとして語られた(45).

現象学的なアプローチで看護の学士教育を受けているシングルマザーの生きられた経験に迫った研究では³⁾、シングルマザーはいつも懸命であり、心配事に圧倒され、かつ将来への希望に満ちていた.母親達はひとりで子育でする負担、親密な関係の不在、シングルマザーであることに関するスティグマ、学生であり労働役割も果たすという過重の役割負担等によって、慢性的な疲れと圧倒されるような心配を抱えていた³⁾.その一方で、この研究では母親達が大学で学ぶことによって将来への希望を手に入れ、自尊心や自己価値を高めていたことが明らかになった³⁾.

2)子育てに関する研究の中で、対象者の一部にシングルマザーを含んだ研究

特定の民族的背景をもつ女性の、家族の健康を守る活動に注目した研究⁴⁹⁾では、女性たちの役割は親になることと家族をケアすることの2つのカテゴリーに分けられた。その研究では女性たちの多重な役割負担とコンフリクトが強調され、メキシコ系アメリカ人女性の視点を通して、自ら重要であると文化的に定義するそれらの役割をやり通すプロセスが示された。同時に、彼女らがその役割を文化的に不必要だと感じることによる負担についても示された⁴⁹⁾。コミュニティや家族に対して働きかける看護職者に

とって、家族の健康に働きかける女性の役割を解明 するために、特定の民族的背景をもつ女性の多くの 声に気づくことが重要である⁴⁹.

子育てにおいて母親が感じる「母親非難」につい ての研究50)は、母親に生じる複雑な罪意識を明らか にした. この研究でデータとした母親達の語りを研 究者はナラティヴと呼んだ. そこにはいくつかの非 難のストーリー;家族からの,自分自身での,助け を求めたはずの保健専門家からの、が現れた、そし て「保健専門家にとって、家族の問題を母親のせい にした方が、社会政策やコミュニティサービスを女 性や家族の支援に見合ったものに変革するより容易 である」、「ワーカー達は自らが準備・資源不足であ るが故に、暴力的な父親に対処せずに母親へ注意を シフトさせる」という批判的な検討500がなされてい る. さらに母親非難は女性が支援を求める上での障 害になると保健専門家は認識すべきである⁵⁰⁾と訴え, 多くの研究者が時代遅れ(男性優位、女性蔑視)の 仮説をもつ故に研究の成果は先入観で描かれてしま い、今後ひとりで子育てする女性が増えれば、ます ます女性が非難の的となりやすい500と危惧している. 看護職者は、母親としての女性を支援するために、 女性への関わり方を内省し, 支持的で女性を受け入 れるサービスを生み出すべきである500と主張した.

Ⅳ. 考 察

1. ひとり親家族に関する文献の経時的な変化

本文献レビューは1995-2007年を検索期間とし、質的な研究に焦点を当てて、前述したような様々なキーワードを用いて文献を絞り込んだ。一方、筆者らが参考としたFord-Gilboeらの文献レビュー(1983-1993年)では、キーワードを"single parent family" "single-parent"とし、量的な研究やシングルマザー以外のひとり親家族を含んでいた。検討した11文献のうち8文献が1989-1991の3年間に集中したことに対してFord-Gilboeは、ひとり親家族の研究にさほど注意が払われてこなかったことは明らかである®

と述べている. 文献数の経時的な変化には,本レビューにおいても同様の現象が見られた. つまり,特定の時期に研究発表が集中することはあるが,経年的にみて文献数が増加し,この領域への関心が高まっているとは一概に言えない状況であった.

2. 今後の看護実践と研究に求められる課題

本稿でレビューした研究は米国、豪州、カナダ等 で行われたものが多く、各研究の結果や考察も各国 の事情を背景としたものである. また、結果および 示唆のすべてがシングルマザーの子育てに限定して 述べられたことではない. そのような限界をもつ中 でレビューした文献から、今後のシングルマザーの 子育てに関する研究や実践に求められる課題をまと めると次のようになる. (1)当事者の女性のストレ ス状況を理解すること、(2)日々新奇な場面に遭遇 するという子育てにおいて子どもによりよく関われ るような子育てスキルを提案できること、(3)コミュ ニティを基盤として身近に暮らす人々を繋ぎ、相互 作用を促進して孤立感を解消するようなサポートグ ループを育てること、(4)当事者の女性が抱える慢 性的な疲れや多重役割と葛藤について、それを民族 的な背景や特定の生活背景との関連から理解するこ と, (5)介入の際には共にプランを立て, パートナー としての姿勢をもつこと、(6)家族内で風通しの良 い人間関係を築くための支援をすること, (7)家族 が経験を一貫した物語として構成する中で意味づけ ていくのを助けること, 等である.

またFord-Gilboeらは文献レビューの中で、ひとり 親家族のユニークな強さやそれが効果的に発揮され る状況等、ひとり親家族とふたり親家族の相違に気 づく研究の重要さを認め⁸⁾、さらに、それと同じく らい、両家族の類似性に気づくことが重要であると も述べている⁸⁾。本レビューの11文献の中で、対象 者の一部にシングルマザーを含んだ研究^{49,50,53)}では、 家族構成の違いによる結果を提示しているが、子育 て経験に焦点を当てて家族構成の違いを越えた類似 性に踏み込んだ記述は見あたらなかった。このよう な、家族構成の違いを越えた子育て経験の類似性に ついては、単一の研究だけで述べられることではなく、研究の蓄積を見渡した総説等で検討することかもしれない. ひとり親の子育ての苦悩や強みを、とことんひとり親に関わって、あるいは様々な家族の子育てに視野をおきつつ理解することが、ひとり親のための研究や支援を提案することになり、さらには子育てにおいて普遍的に見られる現象への理解と解決の糸口につながるのだと考える.

また、今回の文献レビューから、これまでの研究は夫婦の別離後の家族関係や親密なパートナーからの暴力の影響への考慮に欠けており、最近は子どものウェルビーイングに影響する両親間のコンフリクトや暴力の目撃等の不安定な環境について認識され始めたこと^{46,47)}がわかった。このような領域は、今後の日本においてシングルマザーの経験を理解するうえで、重要なテーマになるであろう。

3. 研究対象者と研究者の関係性についての課題

研究対象者と研究者の関係について、このたびレ ビューした11文献においては、当事者の主観的経験 を重視するフェミニストの立場での研究46,47,50)や複数 回のインタビューや参与観察を用いた民族誌的な デザインの研究49があった. Ford-Gilboeらは、文献 レビューの際に「女性に関する研究(research on women)」と「女性のための研究 (research for women)」に分けて論じ⁸⁾,広く知識と理解を促すた めの「女性に関する研究」が多数を占めたが、社会 や政策を変革し、女性の生活を励ます「女性のため の研究」も少数存在した®と述べている. しかしFord-GilboeらのレビューではJacksonらの指摘のように、 研究者や支援者がもつ母親非難的な態度によって研 究結果が先入観で描かれ、サービスや政策の変革に 力が注がれない500という落とし穴もある. 研究の結 果を研究対象者に確認して信頼性や妥当性を確保す るという方法は、研究の方法論上の工夫として本レ ビューの対象となった研究においても用いられてい た48). しかし,研究のプロセスや結果を研究対象者 と共有するという、さらに踏み込んだアプローチの 工夫が今後の課題であろう. つまり, 前述した2つ のタイプに「女性と共に行う研究(research with women)」という視点を提案したい。支援者が外側から当事者のニーズや能力を規定するやり方ではなく、当事者の経験を熱心に学び、そこに努力や価値を見出すプロセスに立ち会い、当事者が選んだ方法で課題に取り組むのを支援するという姿勢が求められていると考える。今回レビューした文献の中には、「女性と共に行う」「協働作業としての」研究の性格を積極的に述べたものは見い出せなかった。

4. 本レビューの限界と今後の課題

本レビューの文献入手、検索の手順については、 シングルマザーの子育てに関する経験を扱った質的 研究を探そうと、関連あるキーワードを使用して幅 広く文献を集めた. また, 入手した文献からさらに 関連文献を探る手動検索も行ったが、それらの方法 が、かえって文献検索の手順をシステマティックで はないものにした可能性がある. また, 国内の研究 機関で入手できた文献に限っており, 文献検索の方 法に曖昧さや不十分さがあることは否めないが、シ ングルマザーの経験に迫る有用な研究を紹介できた と考えている. 各研究の主張を概観できたことは, シングルマザーの経験をテーマに研究を進める筆者 らにとって、貴重な機会となった. このテーマに関 連する研究についての情報を今後も集めることによっ て, 公衆衛生や看護の領域を越えて文献を検討する 必要があると考える.

文 献

- 1) 厚生労働省雇用均等·児童家庭局:全国母子世帯等調査結果報告, 2005
- 2) Patricia Hale Moriarty & Linda D. Wagner: Family rituals that provide meaning for single-parent families, Journal of Family Nursing, 10(2): 190-210, 2004
- 3) Olayide Ogunsiji & Lesley Wilkes: Managing family life while studying: Single mothers' lived experience of being students in a nursing program, Contemporary Nurse, 18(1/2): 108-123, 2004-5
- 4) 門間晶子, 浅野みどり, 野村直樹:シングルマザーの子育てに 関する国内文献レビュー, 家族看護学研究, 12(3):153-161,

2007

- 5) 庄司洋子,大日向雅美,渡辺秀樹,他:東京都女性問題調査研 究報告 ひとり親家族に関する研究,東京女性財団, 1993
- 6) 堀田香織:第6章シングルマザー, 稲垣佳世子・岩田純一, 他編:児童心理学の進歩, 41:136-158, 金子書房, 東京, 2002
- 7) Marilyn M. Friedman: Family Nursing/野嶋佐由美監訳, 家族看護学 理論とアセスメント, 15-17, へるす出版, 東京, 1998.
- 8) Marilyn Ford-Gilboe & Jacquelyn Campbell: The motherheaded single-parent family, A feminist critique of the nursing literature, Nursing Outlook, 44(4): 173-183, 1996
- 9) Melanie Lutenbacher & Lynne A. Hall :The effects of maternal psychosocial factors on parenting attitudes of low-income, single mothers with young children, Nursing Research, 47(1): 23-34, 1998
- 10) Melanie Lutenbacher: Perceptions of health status and the relationship with abuse history and mental health in lowincome single mothers, Journal of Family Nursing, 6(4): 320-340, 2000
- 11) Melanie Lutenbacher: Psychometric assessment of the adultadolescent parenting inventory in a sample of low-income single mothers, Journal of Nursing Measurement, 9(3): 291-308,2001
- 12) Melanie Lutenbacher: Relationships between psychosocial factors and abusive parenting attitudes in low-income single mothers, Nursing Research, 51(3): 158-167,2002
- 13) Elizabeth A. & LeCuyer-Maus: Stress and coping in highrisk mothers: Difficult life circumstances, psychiatric mental health symptoms, education, and experiences in their families of origin, Public Health Nursing, 20(2): 132-145,2004
- 14) Rachel F. Schiffman, Mildred A. Omar & Lorraine M. Mckelvey: Mother-infant Interaction in low-income families, MCN, 28(4): 246-251, 2003
- 15) Mildred A. Horodynski & Cynthia Gibbsons: Rural law-income mothers' interactions with their young children, Pediatric Nursing, 30(4): 299-306, 2004
- 16) Marian L.Farrell: The Sense of relationship in women who have encountered abuse, Journal of the American Psychiatric Nurses Association, 2(2):46-53,1996
- 17) Azmaira H. Maker, Priti V. Shah & Zia Agha: Child physical abuse: Prevalence, characteristics, predictors, and beliefs about parent-child violence in South Asian, Middle Eastern, East Asian, and Latina women in the United States, Journal of Interpersonal Violence, 20(11): 1406-1428, 2005
- 18) Sheree L. Toth, Dante Cicchetti, Jenny Macfie, et.al.: Narrative representations of caregivers and self in malt reated pre-schoolers, Attachment & Human Development,

- 2(3): 271-305, 2000
- 19) Timothy Page & Inge Bretherton: Mother-and father-child attachment themes in the story completions of pre-schoolers from post-divorce families: do they predict relationships with peers and teachers?, Attachment & Human Development, 3(1): 1-29, 2001
- 20) Christie Campbell-Grossman & Rebecca Keating-Lefler: Community leader's perceptions of single, low-income mother's needs and concerns for social support, Journal of Community Health Nursing, 22(4): 241-257, 2005
- 21) Helen Mulcahy: 'Vulnerable Family' as understood by public health nurses, Community Practitioner, 77(7): 257-260, 2004
- 22) Mury E. Duffy, Katri Vehvilainen-Julkunen, Debra Huber, et.al: Family nursing practice in public health: Finland and Utah, Public Health Nursing, 15(4): 281-287, 1998
- 23) Hila J. Spear: Teenage pregnancy: "Having a baby won't affect me that much", Pediatric Nursing, Nov/Dec, 27(6): 574-580,2001
- 24) Hila J. Spear: Personal narratives of adolescent motherto-be: Contraception, decision making, and future expectations, Public Health Nursing, 21(4): 338-346,2004
- 25) Hila J. Spear: A Follow-Up Case Study on Teenage Pregnancy: "Havin'a Baby isn't a Nightmare, but it's Really Hard", Pediatric Nursing, 30(2):120-125, 2004
- 26) Lee SmithBattle: Legacies of advantage and disadvantage: The case of teen mothers, Public Health Nursing, 24(5): 409-420,2007
- 27) Carnel Seibold: Young single women's experiences of pregnancy, adjustment, decision-making and ongoing identity construction, Midwifery, 20:171-180, 2004
- 28) Barbara Hanna: Negotiating moterhood: the struggles of teenage mothers, Journal of Advanced Nursing, 34(4): 456-464, 2001
- 29) Sandra S. Averitt: "Homelessness is not a choice!" The plight of homeless women with preschool children living in temporary shelters, Journal of Family Nursing, 9(1): 79-100, 2003
- 30) Anne Scott Stiles: Parenting need, goals, strategies of adolescent mothers, MCN, 30(5): 327-333, 2005
- 31) Janna Lesser, Deborah Koniak-Griffin & Nancy L. Anderson: Depressed adolescent mothers' perceptions of their own maternal role, Issues in Mental Health Nursing, 20: 131-149, 1999
- 32) Joan H. Baldwin, Ann Rawlings, Elaine S. Marshall, et al.; Mom Empowerment, Too! (ME2): A program for young mothers involved in substance abuse, Public Health Nursing, 16(6): 376-383, 1999
- 33) Catherine Hiersteiner: Narratives of low-income mothers

- in addiction recovery centers: Motherhood and the treatment experiece, Journal of Social Work Practice in the Addictions, 4(2):51-64 2004
- 34) Roberta G. Sands, Nancy Koppelman & Phyllis Solomon: Maternal custody status and living arrangements of children of women with severe mental illness, Health & Social Work, 29(4): 317-325, 2004
- 35) Jennifer L.Hall & Edwin R.van Teijlingen: A qualitative study of an integrated maternity, drugs and social care service for drug-using women, BMC Pregnancy and Childbirth, 6(19): 2006
- 36) Steven J. Ondersma, Dace S. Svikis & Charles R. Schuster: Computer-based brief intervention: A randomized trial with postpartum women, Am J Prev Med, March, 32(3): 231-238, 2007
- 37) Lungiswa L. Nkonki, Tanya M.Doherty, Zelee Hill, et.al:
 Missed opportunities for participation of mother to child
 transmission programmes: Simplicity of nevirapine does
 not necessarily lead to optimal uptake, A qualitative
 study, AIDS Research and Therapy, 4(27):1-5,2007
- 38) Patrick Shannon: Barriers to family-centered services for infants and toddlers with developmental delays, Social Work, 49(2): 301-308, 2004
- 39) Anita Pejlert: Being a parent of an adult son or daughter with severe mental illness receiving professional care: parents' narratives, Health and Social Care in the Community, 9(4): 194-204, 2001
- 40) Barbara L. Rodriguez & Lesley B. Olswang: Mexican-American and Anglo American mothers' beliefs and values about child rearing, education, and language impariment, American Journal of Speech-Language Pathology, 12(4):452-462, 2003
- 41) Hwey-Fang Liang & Ellen Olshansky: The process of decision making about care practices for children by caregivers who are Taiwanese temporary residents in the United States, International Pediatric Nursing, 20(6): 453-460, 2005
- 42) Michal Rosenberg & Joseph Guttmann: Structural boundaries of single-parent families and children's adjustment, Journal of Divorce & Remarriage, 36(1/2):83-97, 2001
- 43) Anne E. Brodsky: "MAKING IT": The components and process of resilience among urban, African-American, single mothers, American Journal of Orthopsychiatry, 69(2):148-171, 1999
- 44) Anja Taanila, Elina Laitinen, Irama Moilanen, et.al.: Effect of family interaction on the child's behavior in single-parent or reconstructed families, Family Process, 41(4):693-708,2002
- 45) Sharon Yanicki: Social support and family assets: The perceptions of low-income lone-mother families about support from home visitation, Canadian Journal of Public

- Health, 96(1):46-49,2005
- 46) Judith Wuest, Marilyn Ford-Gilboe, Marilyn Merritt-Gray, et.al:Intrusion:The central problem for family health promotion among children and single mothers after leaving an abusive partner, Qualitative Health Research, 13(5): 597-622, 2003
- 47) Judith Wuest, Marilyn Merritt-Gray & Marilyn Ford-Gilboe: Regenerating family; Strengthening the emotional health of mothers and children in the context of intimate partner violence, Advances in Nursing Science, 27(4): 257-274, 2004
- 48) Barbara Sachs, Mary Pietrukowicz & Lynne A. Hall: Parenting attitudes and behaviors of low-income single mothers with young children, Journal of Pediatric Nursing, 12(2): 67-73,1997
- 49) Cndy Mendelson: The roles of contemporary Mexican American women in domestic health work, Public Health Nursing, 20(2):95-103, 2003
- 50) Debra Jackson & Judy Mannix: Giving voice to the burden

- of blame: A feminist study of mother's experiences of mother blaming, International Journal of Nursing Practice, 10 :150-158, 2004
- 51) Rebecca Keating-Lefler, Diane Brage Hudson, Christie Campbell-Grossman, et.al: Need, concerns, and social supportof single, low-income mothers, Issue in Mental Health Nursing, 25:381-401, 2004
- 52) Eugenie Hildebrandt & Sheryl T. Kelber: Perceptions of health and well-being among women in a work-based welfare program, Public Health Nursing, 22(6):506-514, 2005
- 53) Tatiana Coelho Lopes, Joaquim Antonio Cesar Mota & Suelene Coelho: Perspectives from a home based neonatal care program in Brazil's Single Health System, Rev. Latino-Am. Ebfermagem, 15(4): July/Aug ,543-548,2007
- 54) Lynne A.Hall, Diana N. Gurley, Barbara Sachs, et. al: Psychological predictors of maternal depressive symptoms, parenting attitudes, and child behavior in single-parent families, Nursing Research. 40(4):214-220.1991

Qualitative studies on single-mothers' child-rearing; Literature review in English 1995-2007

Akiko Kadoma^{1,2)} Midori Asano³⁾ Naoki Nomura⁴⁾
1) Nagoya City University, School of Nursing
2) Nagoya University, Graduate School of Medicine
3) Nagoya University, School of Health Sciences
4) Nagoya City University, Graduate School of Humanities Social Sciences

Key words: One-parent family, Single mother, Child rearing, English literature review, Qualitative study

The purpose of this paper is to review qualitative studies in the English literature on single-mother families and its child rearing, and explore the task for future studies. Our search of the relevant literature between 1995-2007 with a focus on divorced-mothers, using the Web edition of CINAHL and PubMed, revealed 11 journal articles with the following contents and concerns: interaction between mother and child, family rituals, blaming mothers, and mothers' experiences of partner violence and the subsequent family regenerating process. The research approach used was several interviews with the mothers in such studies. The issue and practices found in the literature review were as follows: i) to understand chronic fatigue, multiplex roles, and conflict that woman experienced; ii) to propose child-rearing skills; iii) to provide community-based support to overcome feelings of isolation; iv) to help build open family relations; v); to help make sense of families' experiences by constructing storylines; and vi) the attitude of a partner who makes a plan together. It is important for us to learn about single mothers' experiences and to help them grapple with the issues using a method of their own choosing, not prescribe mothers' needs and ability from the outside. The possibilities for future research include the following: research on the influence of spousal violence on child-rearing; and research on not only differences but also similarities between one- and two- parent families. This approach may make it possible for the childrearing research of single mothers to be connected with issues of understanding child care and education as a whole.